

< 国語 >

伝え合う力を高める学習指導の工夫
～「話すこと・聞くこと」の領域における読書討論会を通して～
普天間第二小学校教諭 新垣 多美子

目 次

テーマ設定の理由	2 1
研究目標	2 1
研究仮説	2 1
研究の全体構想図	2 2
研究内容	
1 伝え合う力について	2 3
2 「話すこと・聞くこと」について	2 4
3 読書討論会	2 7
検証授業	2 9
1 単元名	2 9
2 教材名	2 9
3 単元目標	2 9
4 単元について	2 9
5 評価規準	3 2
6 指導計画	3 2
7 本時の展開	3 4
8 検証授業研究会	3 5
仮説の検証	
1 具体仮説 の検証	3 7
2 具体仮説 の検証	3 8
研究の成果と今後の課題	
1 研究の成果	4 0
2 今後の課題	4 0
3 おわりに	4 0

< 主な参考文献 >

< 国語 >

伝え合う力を高める学習指導の工夫
～ 「話すこと・聞くこと」の領域における読書討論会を通して～
普天間第二小学校教諭 新垣 多美子

テーマ設定の理由

国際化・情報化が進み、状況がめまぐるしく変化している現代社会において、主体的に力強く生きていくためには、自分の思いや考えをしっかりと抱き、表現する力が重要になってくる。

学習指導要領国語科においては、「伝え合う力を高める」ことが目標の中に位置づけられ、「人間と人間の関係の中で、互いの立場や考えを尊重しながら、言葉を通して適切に表現したり正確に理解したりする力」の育成が求められている。

これまでの授業実践を振り返ってみると、作文やスピーチ等で自分の思いや考えを発表すること、調べたことをわかりやすく報告するための効果的な方法等、伝える活動について取り組んできた。しかし、情報を伝えることに満足し、自分の言葉でわかりやすく伝えたり、相手の伝えたいことを考えながら聞いたりすることや、交流を通して学び合う指導の工夫が課題として残った。

児童の実態をみると、人前で話すことが「恥ずかしい」「自信がない」という精神的な面に加え、「何をどのように話したり聞いたりしていいかわからない」という技能的な面があることも感じられた。言葉の意味をしっかりととらえて、自分の言葉で伝え合うことができるようにしたい。また、相手を理解し、相手の思いや考えを受け止め、学び合い、お互いが高まるような伝え合うことのよさや喜びを味わわせたい。言葉での伝え合いは、音声言語活動の「話すこと・聞くこと」の指導が重要である。そのために、伝え合う場の設定として話し合い活動を取り入れ、相互交流をしていくことで、子ども達の的確に話す力や相手の意図をつかみながら聞く力、計画的に話し合おうとする態度を身につけることができるのではないかと考えた。

そこで、「話すこと・聞くこと」の領域において読書討論会を設定し、言葉に着目した読み取りや、段階を追った話し合い活動を取り組んでいくことにより、子どもたちが自分の思いや考えを意欲的に表現したり、友達の良さを取り入れたりすることで、学び合う喜びを味わうことができ、伝え合う力が高まるであろうと考え、本テーマを設定した。

研究目標

「伝え合う力」を高めるために、読書討論会を取り入れた学習指導の工夫を研究する。

研究仮説

1 基本仮説

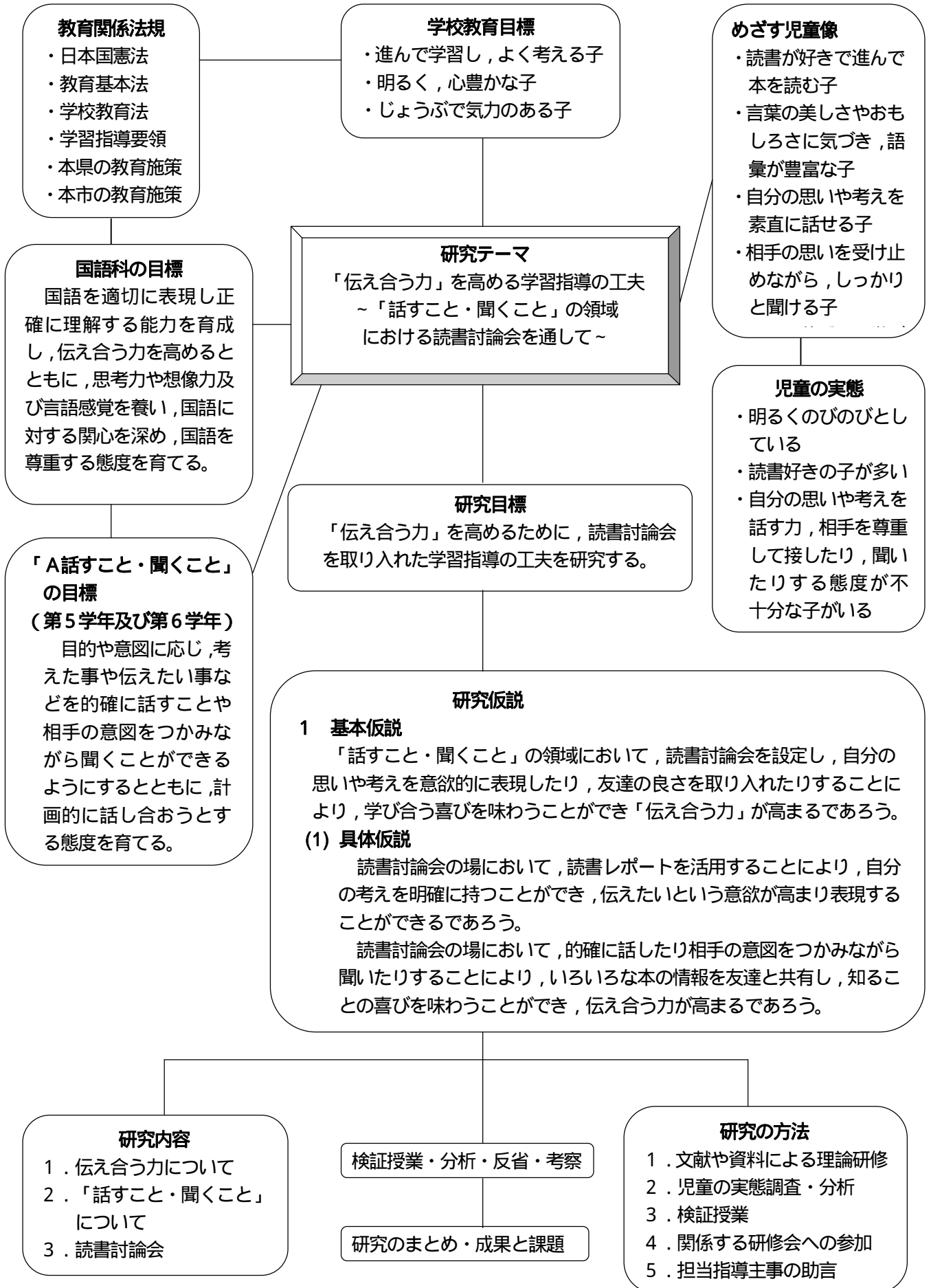
「話すこと・聞くこと」の領域において、読書討論会を設定し、自分の思いや考えを意欲的に表現したり、友達の良さを取り入れたりすることにより、学び合う喜びを味わうことができ「伝え合う力」が高まるであろう。

(1) 具体仮説

読書討論会の場において、読書レポートを活用することにより、自分の考えを明確に持つことができ、伝えたいという意欲が高まり表現することができるであろう。

読書討論会の場において、的確に話したり相手の意図をつかみながら聞いたりすることにより、いろいろな本の情報を友達と共有し、知ることの喜びを味わうことができ、伝え合う力が高まるであろう。

研究の全体構想図



研究内容

1 伝え合う力について

(1) 伝え合う力とは

小学校学習指導要領 国語編 によると、「伝え合う力」とは「人間と人間との関係の中で、互いの立場や考えを尊重しながら、言語を通して適切に表現したり正確に理解したりする力」とされている。堀 裕嗣氏は、『発信型授業で「伝え合う力」を育てる』の中で、「伝え合う力」とは、ものの見方・考え方の違いを認め合うこと、言葉を尽くして理解し合い、共存・共生すること、という二つの概念を包含した概念とし、「伝え合う力」を「互いの立場を尊重しながら、言葉で通じ合う力」と定義している。つまり、「伝え合う力」とは、言語を通して、相手の思いや考え方を尊重し、「理解し合い」「認め合い」「感じ合い」等という心の交流を図り、豊かな人間関係を築いていく力であると捉えることができる。

(2) 伝え合う力をつける必要性

情報化・国際化・少子化・高齢化・通信システムや科学技術の発展、環境問題等の様々な面で急速に変化していく現代社会において、この様な変化に対応し心豊かに逞しく生きていくためには、言語によるコミュニケーション能力を育成していくことが不可欠になってくる。それは、相手がどこの誰であろうと、自分の言いたいことを理解させる能力・また相手がどこの誰であろうと、その言うことを理解する能力であると捉えることができる。しかし、様々な価値観を持った人々が集まった場合、「相手も自分と同じ思いや考えをしているはずだ」という思い込みでは、コミュニケーションが成り立たない。コミュニケーションの基本は、相手の人格や考え方を尊重する態度と言葉による伝え合いである。よって、これからの時代に必要なのが「伝え合う力」であると考えることができる。

(3) 伝え合う力の育成

文化審議会答申では、『これからの時代に求められる国語力について』において「社会生活は、人間と人間との関係によって成立しているが、その人間関係を成立させるのがコミュニケーションの手段として用いられる国語である。コミュニケーションを成り立たせている『聞く・話す・読む・書く』のすべてが国語を通して行われ、これらの活動を介して社会生活が成立している。すなわち国語なくしては、社会は成立せず、その発展も望めない。」と述べている。

コミュニケーションを「伝え合う力」として考えてみると、「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」のすべての領域において、指導を充実させ育成されなければならない。さらには、国語での「伝え合う力」が、どの教科においても内容を学ぶ力になっていると考えることができる。したがって、国語科の学習では、どのような言語活動を通して、どのような言語能力を養うかという計画的・意図的な学習活動が展開されなければならない。

また、伝え合うということは、どちらかが一方的に話したり聞いたりするのではなく、伝える相手がいるということが重要である。「伝え合う力」の育成とは、相手や目的、場面などに応じて、自分の考えを適切に表現・伝達するとともに、相手の立場や考えを尊重しながら、理解する能力と態度を育てることにある。そのために、図1で示すように5つの観点を押さえながら指導していく。

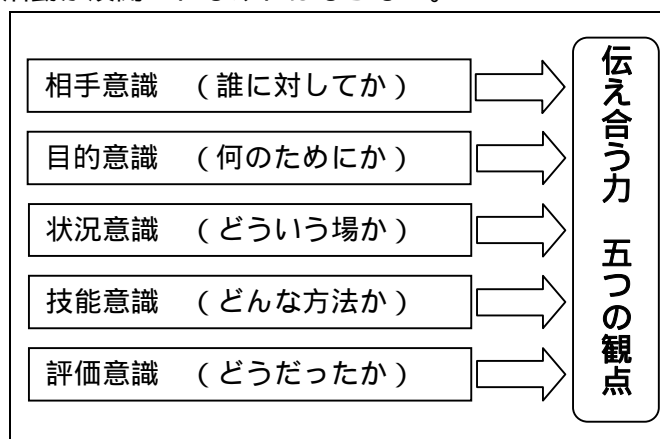


図1 「伝え合う力」の5つの観点

2 「話すこと・聞くこと」について

(1) 「話すこと・聞くこと」とは

学習指導要領では、お互い立場や考えを尊重して言葉で伝え合う能力を育成することに重点がおかれ、「話すこと・聞くこと」が1領域としてまとめられている。その内容は、「相手や目的、意図に応じ、筋道を立てて話したり、相手の話の中心や意図を聞き取ったりする能力の育成」が重視されている。「話すこと・聞くこと」は人と関わる言語活動であり、社会生活を営む上でなくてはならない言語能力である。伝え合う力の育成を考えると、「話すこと・聞くこと」は確実に身につけさせたい能力であるとする。

(2) 「話すこと・聞くこと」の目標と指導内容

学習指導要領の「話すこと・聞くこと」の目標と指導内容は下記の通りとなり、各学年の発達を追って指導を行い、能力の育成に努めなければならない。

表1 学習指導要領にみる「話すこと・聞くこと」の目標・内容・言語事項

学年	話すこと			聞くこと	話し合うこと
	対象(相手)	内容(話題)	技能(能力)	技能(能力)	態度
1・2	相手に応じ	経験した事などについて	事柄の順序を考えながら話すこと	大事な事を落とさないように聞くこと	話し合おうとする態度を育てる
3・4	相手や目的に応じ	調べた事などについて	筋道を立てて話すこと	話の中心に気をつけて聞くこと	進んで話し合おうとする態度を育てる
5・6	目的や意図に応じ	考えた事や伝えたい事など	的確に話すこと	相手の意図をつかみながら聞くこと	計画的に話し合おうとする態度を育てる

	1・2年	3・4年	5・6年
内容	<p>ア 知らせたいことを選び、事柄の順序を考えながら相手にわかるように話すこと。</p> <p>イ 大事なことを落とさないようにしながら、興味を持って聞くこと。</p> <p>ウ 身近な事柄について、話題に沿って、話し合うこと。</p>	<p>ア 伝えたいことを選び、自分の考えが分かるように筋道を立てて、相手や目的に応じた適切な言葉遣いで話すこと。</p> <p>イ 話しの内容に気をつけて聞き、自分の感想をまとめること。</p> <p>ウ 互いの考えの相違点や共通点を考えながら、進んで話し合うこと。</p>	<p>ア 考えた事や自分の意図が分かるように話の組み立てを工夫しながら、目的や場に応じた適切な言葉遣いで話すこと。</p> <p>イ 話し手の意図を考えながら話の内容を聞くこと。</p> <p>ウ 自分の立場や意図をはっきりさせながら、計画的に話し合うこと。</p>
言語事項	<p>ア(ア)姿勢、口形などに注意して、はっきりした発音で話すこと。</p> <p>エ(ア)文の中における主語と述語の関係に注意すること。</p> <p>オ(ア)丁寧な言葉と普通の言葉との違いに気をつけて話し、また、敬体の文章になれること。</p>	<p>ア(ア)その場の状況や目的に応じた適切な音量や速さで話すこと。</p> <p>オ(ア)修飾と被修飾との関係など、文の構成について初歩的な理解をもつこと。</p> <p>オ(イ)文章全体における段落の役割を理解すること。</p> <p>オ(ウ)文と文との意味のつながりを考えながら、指示語や接続語を使うこと。</p> <p>カ(ア)相手やその場の状況に応じて丁寧な言葉で話し、また、文章の敬体と常体との違いに注意しながら書くこと。</p>	<p>ウ(ウ)表現したり理解したりするために必要な語句について、辞書を利用して調べる習慣を付けること。</p> <p>ウ(エ)語感、言葉の使い方に対する感覚などについて関心をもつこと。</p> <p>オ(ア)文や文章にはいろいろな構成があることについて理解すること。</p> <p>カ(ア)日常よく使われる敬語の使い方に慣れること。</p> <p>カ(イ)共通語と方言の違いを理解し、また、必要に応じて共通語で話すこと。</p>

(3) 「話すこと・聞くこと」の活動形態

話すこと・聞くこと」の領域には、次の三つの活動形態（表2）がある。国語科の授業においては、この三つの活動形態をしっかりと意識し、目的に沿ってバランスよく扱う必要があると考えられる。

表2 言語活動例

形態	双方関係	活動例	
独話	発信型	1対多	発表・報告・紹介・スピーチ・プレゼンテーション等
対話		1対1	挨拶・質疑応答・対談・インタビュー等
会話	交信型	1対多	鼎談・話し合い・座談会・討議・会議・ディベート・シンポジウム・パネルディスカッション等

(4) 「話すこと・聞くこと」で身につけさせたい力

「話すこと・聞くこと」で身につけさせたい能力と、「話し合おうとする」態度を育成する事は、これからの時代に、豊かな人間関係を築きながら逞しく生活するための不可欠な言語能力の基礎であると考えられる。そこで、「話すこと・聞くこと」の領域において、児童に身に付けさせたい力を、堀 裕嗣氏が『発信型授業で「伝え合う力」を育てる』で提唱した五系列二十の技術を基に、表3にまとめた。また、話し合うことについては、言語活動別に能力一覧を表4に示す。

表3 「話すこと・聞くこと」で身につけさせたい力

	話 す こ と	聞 く こ と
基礎系列	姿勢・・・安定した自然体が安定した話力をつくる。(背筋を伸ばす) 呼吸・・・たっぷり息を吸うことが良い声をつくる。(複式呼吸) 発声・・・一番後ろまで自分の声を届けることが最低限のルールである。 発音・・・正しい口形が正しく明快な発音をつくる。	話し手の表情を見ながら最後までしっかりと聞く。
抑揚系列	音量・・・音量に強弱等の変化をつけることにより、抑揚をつける。 声音・・・声音に高低等の変化をつけることにより、抑揚をつける。 速度・・・速度に変化をつけることにより、抑揚をつける。 間・・・言葉を区切ったり、適切な間を工夫したりする。 * これらを工夫することにより、印象づけることができる。	メモを取りながら聞く。 5W1Hを意識して聞く。 効果的な方法や言葉遣いに注意しながら聞く。
構成系列	組み立ての工夫・・・順序や話の中心に気をつけながら話す。 ・・・意図をはっきりさせて話す。 ・・・事実と感想・意見を区別して話す。 双括型・・・結論を最初と最後に述べる。 ナンバリング・・・話す事柄に「通し番号」を付け整理する。 ラベリング・・・見出しやキーワードにまとめて提示する。 * これらを工夫することにより、話しをわかりやすくすることができる。	意図は何かを考えて聞く。 事実と感想・意見を区別して聞く。 自分の考えと比べながら聞く。
叙述系列	エピソード・・・具体例や自分の体験談を取り入れる。 データ・・・アンケートの結果等数字を提示する。 オブジェクション・反論や例外をあらかじめ想定する。 ツール・・・実物や、提示資料を活用する。 * これらを取り入れることにより、説得力を高めることができる。	共に考えたい事は何か考えて聞く。 内容に関する感想や意見を持つ。
聴衆系列	視線・・・聞き手に視線を向ける。 動作・・・身振り手振りを交えることで、聞き手をひきつける。 言葉遣い・・・相手や目的・場に応じた言葉遣いをする。(方言と共通語) 交流・・・意見を交わしたり、質問されたことに答えたりする。	疑問や確かめたいことを質問する。

表4 「話し合うこと」の言語活動能力一覧

言語活動例	1・2年	3・4年	5・6年
対話・対談 2者が向かい合って話をすること。	身近な事柄を話題にし、相手の話を受けて話したり聞いたりする。	話の中心に沿って、質問や応答をしたり感想を述べたりする。	話題を選び、相手の気持ちや立場を尊重しながら、質問や応答、感想や意見を述べる。
フリートーク (自由討議) 自由に意見を交換する、形式ばらない話し合い。	解決に向けて全員で話し合おうとする気持ちを持ち、話題に沿って、話し手になったり聞き手になったりしながら自由に話し合う	解決に向けて、話の中心点を聞き取り、自分の考えをまとめてから述べ、互いの考えの相違点や共通点を整理しながら話し合う。	解決への見通しを持ち、意図を明確にして話したり聞いたりし、話題の展開の方向を確かめながら話し合う。
テーブル・トーク (座談会) 数人が同席し、ある問題を中心にして、座ったまま、比較的長い時間にわたって、自由に行う話し合い。		話題について、話の中心点を聞き取り、自分の考えをまとめてから述べ、互いの考えの相違点や共通点を整理しながら話し合う。	時間や話題の順序を考え、意図を明確にして話したり聞いたりし、話題について多様な考えを出し合い、互いの考えを確かにする。
会議 ある一定の議題をめぐって討議をし、一定の結論を得る話し合い。会議には、議長(司会・進行)、記録、提案、発言などに、一定の制約やルールが必要。		議論についての自分の考えが分かるように理由や例を挙げて意見を述べる。 話の中心点を聞き取り、自分の考えとの相違点や共通点をとらえ、自分の意見を明確にする。	議題について立場(賛成・反対)を明確にし、自分の考えとその根拠を組み合わせ、組み立てに気を付けて意見を述べる。 提案理由をふまえ、根拠の妥当性・信頼性から他の考えを価値付けながら聞き、よりよい解決に向けて自分の考えをまとめる。
バズ・セッション 話しやすいように、大きな集団を集団に分けて行う話し合い。		話題について互いの考えの相違点や相違点や共通点を整理しながら話し合い、グループの考えをまとめる。	話題について、全体での話し合いとのつながりを意識して、グループでの話し合いを計画的に進める。
ポスターセッション 発表者は、用意したポスターを決められた場所にはって説明する。何組もの発表者が同時に発表し、聞き手は、興味のある発表をいくつかも選んで見聞きする。		自作の資料を提示しながら話し合い、聞いた内容について感想や意見を述べたり質問したりする。	考えの根拠が明らかになる資料を作成して提示し、聞き手に伝わっているか確かめながら話し、聞いた内容について感想や意見を述べたり質問したりし、話題について共通理解する。
ディベート (公論式討議・討論) 発言者が二つに分かれ、議題について賛成と反対の立場から、意見をたたかわせる話し合い。交互に意見を言い、相手に対して反論する。どちらの言い分に分があるかで勝敗を決める。		論議している立場(肯定・否定)を明らかにして、必要な情報を集めて整理し、考え方とその根拠との組み立てを考えて立論する。 相手の立場における考えとその根拠とを聞き分けて質問し、あらかじめ相手の応答の予想を立てる。 自分たちの立論に対する質問を予想したり、質問の意図を的確にとらえたりして応答する。立場や反対尋問、および応答の内容をふまえて、話の組み立てを考え、最終弁論をする。 討論ゲームの進め方を理解し、議題について肯定側と否定側とに分かれて立論や反駁を行い、審判が説得力の視点から勝敗を決定する。	

言語活動例	1・2年	3・4年	5・6年
パネル・ディスカッション (陪席式討議・討論) 数人のパネリストとよばれる人たちが、それぞれの意見を発表し、パネリスト同士で討論する。パネリスト以外の聞き手もパネリストの発言を聞いて、意見や質問を出す。			予定時間内に、議題に対する対立点を明確にし、自分の考えとその根拠を組み合わせ、話の組み立てに気を付けて述べる。 考えとその根拠との関係に気を付けて聞き、考えの対立点をとらえて質問したり意見を述べたりしながら、論題についての自分の考えをまとめる。 討論会の進め方を理解し、論題について立場を明らかにしながら意見交換し、共通理解を深める。
シンポジウム (講壇式討議・討論) テーマについて詳しい人がシンポジストとよばれる発表者となり、新しい情報やあまり知られていないことを取り上げ、聞き手に発表する。シンポジスト同士で議論することもある。			考えとその根拠との関係に気を付けて聞き、考えの共通点や相違点をとらえて質問したり意見を述べたりしながら、論題についての自分の考えをまとめる。 討論会の進め方を理解し、論題について多面的な意見を出し合いながら、共通理解を深める。

『豊かな言語活動で確かな国語力を』 明治図書 参考

(5) 掲示資料

児童の学習の振り返りや定着を図るために、単元学習の中で行う、「話し方」「聞き方」「話し合い方」のワークシート(図2)を作成し、教室に掲示する。そうすることで、国語の教科に限らず他教科や学級活動の中でも、「話し方・聞き方」の力がつくと考えられる。

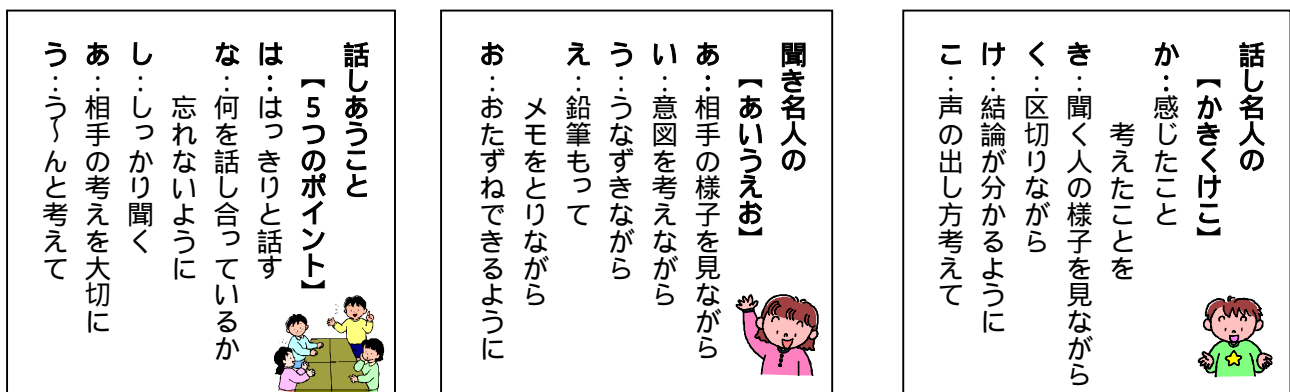


図2 掲示物(高学年用)

3 読書討論会

(1) 読書とは

「子どもの読書活動の推進に関する法律」によると、読書活動の基本理念は「子どもの読書活動は、子どもが言葉を学び、感性を磨き、表現力を高め、創造力を豊かなものにし、人生をより深く生きる力を身に付けていく上で欠くことのできないものである」と記されている。このことから読書によって培われた力は、その人の人間形成にも大きな影響を与えるものだと考える。

子どもは、「楽しみたい」「学びたい」「知りたい」と願っている存在である。読書で、自分の興味・関心にあった本に出会えたときや、自分の課題を解決できたとき、子どもたちは、満足感を得て読書の楽しさを味わい、さらに読書への意欲も広がっていくものであると考える。

(2) 読書会とは

読書会とは、複数の人が集まって本を読んだ感想や意見を話し合うことで、個人での読書を、他人と共有化することで、本を深く読むことを図る活動である。読書会で、自分と違うとらえ方をする人に出会ったり、同じ感想を持った人に親しみを感じたりすることで、相手を思いやる心や尊重する態度が養われるものと期待される。よって読書会による話し合い活動を通して「伝え合う力」が育つであろうと考えられる。国語科における読書会の活動を系統化すると、表5のようになる。

表5 読書会での活動系統

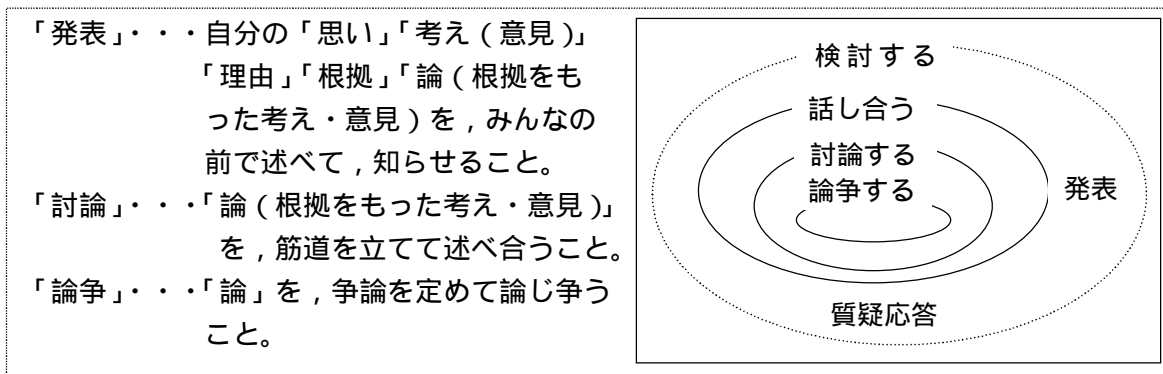
1・2年	3・4年	5・6年
読んだ本の名前・あらすじ・登場人物・おもしろいところを紹介する。	おすすめの本の内容を自分の感想や考えを加えて紹介し、感想交流する。	テーマを決めてグループや全体で感想交流したり、討論したりする。

(3) 読書会における討論活動

広辞苑によると、討論とは、「互いに論議をたたかわせること」さらに論議とは、「意見を出して論じ合うこと」と記している。

石黒 修は、『「討論」で授業を変える』の中で、『「討論」は、子ども一人ひとりの知力を最大限に活かす学習形態である。』とし、「「討論」するために、子ども達は教材をよく読み、教材を検討する。「討論」するために、聞く、話す、書く、調べる等の様々な活動を行う。

「討論」することによって、子どもはどんどん成長していくのである。」と述べている。更に、『討論の授業入門』の中では、次のように定義し、図化している。



このように、ここでいう読書討論会とは、話し合い活動に包含した討論活動とし、読書を通して得た情報を、単に感想の発表会というのではなく、自分の考えたことを相手にわかりやすく話す、相手の意図を考えながら聞く、計画的に話し合うことができる話し合い活動ととらえ、「話すこと・聞くこと」の力をつけていきたいと考える。

読書会における討論活動には、「自由討論式読書会」「会議形式読書会」「討論形式読書会」「パネル・ディスカッション形式読書会」がある。

(4) 読書レポートの活用について

笹原良朗は、『読書の楽しさを伝えよう』の中で、「読書レポートとは、読書した本（または、ひとまとまりの作品や記事）について、その内容の要点を記録し、かつ、それをある人（想定された読者）に的確に報告する文章」と定義している。

ここで取り扱う読書レポートは、今までに学習してきた「読書ノート」や「おすすめの本カード」と性質は同じで、子ども達に「伝える内容」を明確に持たせることをねらいとする。読書レポートの用紙は普段使い慣れている原稿用紙とし、400字程度を基本とする。読書討論会に向けて、調べる・書く活動をしていく中で、自分の考えを整理する手立てとして活用したい。また、読書レポートを見直すときに、自己内対話によって、相手を想定した質問事項や付け加えなどを考えられるように配慮したい。このように、子どもたちが意欲的に話せるように、また自分の考えをしっかり持てるようまとめ活用させたい。

国語科学習指導案

日 時：平成19年7月11日（水）5校時

学 級：普天間第二小学校 5年2組

男子15名 女子20名 計35名

授業者：新垣 多美子

担当講師：多和田 文子

1 単元名 読書の世界を広げよう 「読書会をしよう」

2 教材名 「千年の釘にいどむ」

3 単元目標

ドキュメンタリーを読み、日本の伝統や職人の技に興味を持つとともに、本の世界の広さや楽しさに気づく。

テーマを決めて本を読み、内容・感想を交流する読書会を楽しんで、読書の世界を広げ深める。

4 単元について

(1) 教材観

本単元は、「千年の釘にいどむ」という説明文を読み、それをきっかけに新たな本を読み、読書会を開くというものである。

「千年の釘にいどむ」は、四国のかじ職人・白鷹幸伯さんが、古代の釘を再現する中で説明していった、当時の釘の見事さについて説明しながら、釘作りに挑む職人の心意気を描いた文章である。千年以上前の職人が、現代でもまだ錆びない釘を作り出すだけの高度な技術をもっていたということに、子どもたちはまず驚くであろう。また、「千年の釘にいどむ」は、その題材のおもしろさという点でも、短く、畳みきかけるような文章が生み出す緊迫感や文章構成の明確さという点でも、子どもたちの興味をひく作品である。さらに「それはちがう」「大きさではないか」「おどろいたことに」などといった表現上の工夫もある。

子どもたちがこれまで学習したり、ふだん読んだりしている読み物とひと味もふた味も違うこのような文章をきっかけにして、視野を広げ、新たな読書生活へのスタートとなり、歴史や文化に興味をもち始めるこの時期の子どもたちにとって、適した教材といえる。

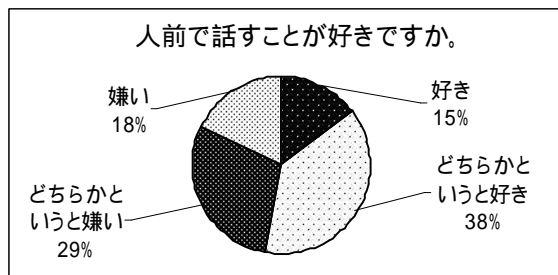
次に続く読書会では、子どもたちが本を読み、その本の内容について話し合おうというものである。読書会で取り上げる本やテーマは、子どもたちの興味関心、内容を考慮して選定し、子どもたちが意欲的に取り組めるよう工夫する。この読書活動を通して、いろいろな読書の仕方があることを知り、読書の幅が広がるのではないかと期待できる。そのことで、子どもたちがいろいろなジャンルの本に興味を持ち、読みたい本を選び、夏休みの読書計画を立てることをねらいとする。

また、読書会で話し合う活動を通して、自分が知り得た本の情報を友達に知らせることや、友達の感じ方や考え方に触れ、自分の考えが広まったり深まったりすることで「伝え合う」を高めることができる単元であると考えられる。

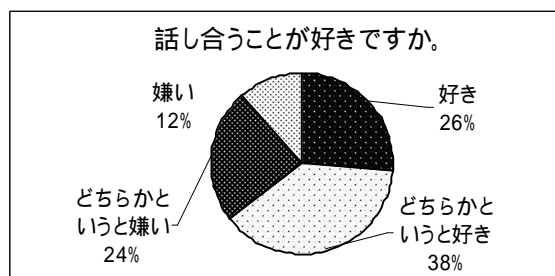
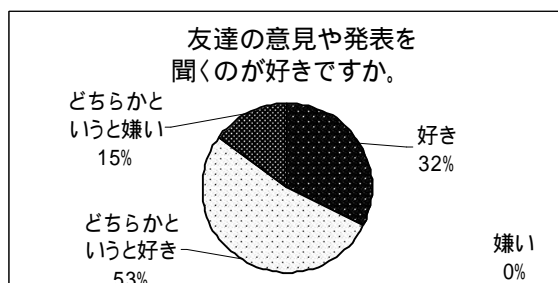
(2) 児童観

本学級の児童は、全体的におとなしく男女の仲が良い。静かに話を聞ける子が多いが、授業中の発表や話し合い活動に関して消極的な傾向が見られる。本学級の児童にアンケートを行った。結果は下記の通りである。

実態調査の結果(34人)、「おしゃべりをするのが好きですか。」という質問に対し、「好き(30人)」「どちらかという好き(4人)」と答えており、クラスの全員が日常生活の中で友達や家族との会話を楽しいと感じている。

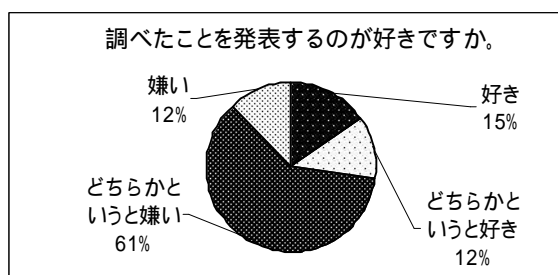


しかし、「人前で話をするのが好きですか。」という質問に対しては、「好き(5人)」「どちらかという好き(13人)」と約半数となる。理由は、「恥ずかしい」「まちがえそう」「緊張する」ということが挙げられる。高学年の児童特有の精神的な面から消極的になっている傾向が伺える。



また、「友達の発表を聞くのは好きですか。」という質問に対して、「好き(11人)」「どちらかという好き(18人)」と答えおり、「友達はどうなことを考えているのだろう」「自分の知らなかったことを話してくれる」「発表の仕方が分かる」という理由が挙げられた。子どもたちが、友達から学ぶことに意欲的な様子が伺える。

しかし、友達の話や発表を聞いた後での話し合い活動に関しては、過半数は好意的であったが、「嫌い(4人)」「どちらかという嫌い(8人)」と答えている子もおり、理由としては、「意見が少なくなると暇」「けんかになる」「めんどくさい」などがあげられた。



「調べ学習」に関しては、ほとんどの子が好きと答えているのだが、「調べたことを発表することが好きですか。」という質問に対しては、ほとんどの子が「どちらかという嫌い(21人)」「嫌い(4人)」と答えている。自分の感じたこと・思ったことだけではなく、調べたことでさえも発表すること

に抵抗を感じている子が多いことが見受けられる。

また、読書が好きかどうかという質問では、ほとんどの児童が好きと答えている。しかしながら、読書量が少ない子や読書が嫌いと答えた児童もいる。「字が多い」「めんどくさい」「おもしろくない」というのがその理由であった。読書分野を調査した結果、漫画的な本や物語を読む児童が圧倒的に多い。ドキュメンタリーや伝記といった分野を読む児童は20%を切っていた。児童によって読書への意欲や、量、興味・関心をもつ分野の本は異なることが伺える。

(3) 指導観

本単元では、ドキュメンタリーの説明文教材「千年の釘にいどむ」を学習した後、読書会を設定する計画になっている。読書会を開くことで、友達が読んだ本について知ったり感想を聞いたりすることは、児童の読書に対する興味を高め、読む本の分野を広げる良いきっかけとなるであろう。さらに、いろいろな考えや感想を交流することで、友達の考えの良さに気づくと共に、自分の考えを深めていく力をつけたいと考える。

今回は読書会として、自分の考えを明確にして話し合うことを意識づけるため読書討論会として設定する。また、テーマを「私のおすすめの人」とし、ドキュメンタリーや自伝で出会った人物に対して考えたことや感じたことを交流することで、自分の考えを深めたり、広げたりさせたい。

テーマに沿って話し合いをするためには視点に沿って本を読み、自分の考えをまとめることが大切である。ワークシートを準備活用し、読書レポートにまとめる活動を通して自分の考えを明確にし、自信を持って話し合い活動に参加させたい。さらに自分の考えをもとにして友達の感じ方や考え方に触れ、相手の意図をより理解できるようにしていきたい。そこで、相手の思いや考えを尊重した態度の育成を図っていききたいと考える。

子どもたちの実態として、人前で話すこと、発表することが苦手だという子が多い。そのことを考慮して、少人数のグループにすることにより、緊張感を少なくし、発言回数を増やして相互交流を楽しむ計画にした。また、1回目に全員共通の教材文で読書討論会を行い、進行の仕方が分かったところで自分の選んだ本で2回目を開くという課程にし、読書討論会の楽しさを味わうと共に、活動の進め方も身に付けられるようにしたい。また、司会進行を自分たちで行うことや小グループでの話し合いにすることで、読書討論会に対する意欲や緊張感も高まるであろうと考えた。

目的を持って読書討論会に参加することにより、子どもたちの「話すこと・聞くこと」の力を育てていきたい。「話すこと・聞くこと」の指導は、音声言語による「的確に話す」「相手の意図をつかみながら聞く」能力と「計画的に話し合おうとする」態度を育てようとするものである。学級の雰囲気作りに気をつけて指導していきながら、「話すこと」「聞くこと」「話し合うこと」のスキル学習をし、話し合いができるよう指導していききたい。

単元の位置づけ

学年	単元名	教材名	たいせつ	活動	本の探し方
1年	本とともだちになろう	ずうっと、ずっと、大すきだよ		題名・出てくる人・出来事を絵カードで紹介する	
2年	本と友だちになろう	スイミー		紹介カード・お話列車	
3年	本と友だちになろう	3年とうげ	おもしろさの発見	本の帯を作り紹介する	本の棚 作者の順番
4年	本と友達になろう	白いぼうし	言葉や表現に気をつけて読む	おすすめの本人カードを作る	目録・カード
5年	読書の世界を広げよう	千年の釘にいどむ	感想をまとめる	グループごとに読書会を開く	本の探し方のいろいろ
6年	読書の世界を深めよう	森へ	効果的な表現を味わう	読書発表会を学級で開き、グループごとに発表する	

5 評価規準

【国語への関心・意欲・態度】

・いろいろな読み物に興味をもって読み，感想を伝え合い，考えを深めようとしている。

【話す・聞く能力】

・読書会の目的と方法に即して，組み立てを工夫して話している。

【書く能力】

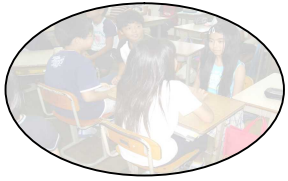

・自分の感じ方や考え方を明確にして，必要な事柄を整理して感想を書いている。

【読む能力】

・読書会の目的に合わせて，本を選んだり効果的に読んだりして，自分の感想を持っている。

6 指導計画（全13時間）

次	時	学 習 活 動	教師の支援	評価の観点
1	1	学習計画を立てる。 ・読書討論会を開くことを知る。 ・「千年の釘にいどむ」を読み，初発の感想を書く。	・読書の楽しさについて話し合い，これからの学習に興味を持たせる。 ・始めて知ったこと，驚いたこと，白鷹さんの行動や気持ちに視点を当て，感想を書かせる。	・読書の楽しさについて考え，学習のめあてを持つことができたか。 ・読書討論会に興味を持ち，感想交流をしようというめあてを持って教材文を読むことができたか。 【関心・意欲・態度】
2	2	教材文を読み取る。 ・古代の職人と白鷹さんの，釘作りに対する思いや工夫を読み取る。	・釘の材質，形，硬さに視点を与え考えさせる。 ・白鷹さんの発言に着目させる。	・古代の職人や白鷹さんの釘作りに対する努力や工夫について読み取っているか。 【読む】
	3	白鷹さんの「職人の意地」について考える。 ・白鷹さんの努力や新たな発見が，「職人の意地」によって支えられていることを読み取る。	・白鷹さんの行動や気持ちに視点を当て白鷹さんがどんな人が考えさせる。	・視点に沿った読み方をして白鷹さんがどんな人が考えることができたか。 【読む】
	4	白鷹さんの「職人の意地」について読書討論会をする。 ・「職人の意地」を見つけて話し合う。 	・メモして自分の考えを発表することや，友達の見解を聞いて考えを持つことにここでなれるよう，全員が発言する場を設定する。 	・話し合いに参加し，自分の考えを話しているか。 ・自分の考えと比べながらメモしているか。 【話す・聞く】 
	5	読書討論会を振り返る。 ・話し合いで深まったことを中心に感想を書く。	・友達の見解も参考にさせ，考えをまとめさせる。 ・自分と比較して考えさせる。	・白鷹さんの生き方に対する考えが深めまっているか。 【書く】

3	6	<p>読書討論会のめあてとテーマ, 学習計画を確認する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・読書討論会のめあてや方法, 話し方・聞き方・話し合い方を確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・読書討論会のめあてや方法, 話し方・聞き方・話し合い方についてワークシートの読み合わせをしながら理解させる。 ・対話形式で, 良い話し方・良い聞き方を練習させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・読書討論会の方法や話し方・聞き方・話し合い方を理解しているか。 <p>【話す・聞く】</p> <p>ワークシート</p> 
	7	<p>読書討論会に向けて本を選び, グループ編成をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・読書討論会の進行の仕方や話し合いたいこと, 役割分担を確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書の「本の探し方」を参考にさせる。 ・紹介する職人さんを決め, 意欲的に取り組ませるようにさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・進んで本を選んでいるか。 ・めあてや学習計画を理解し, 読書討論会への意欲を持っているか。 <p>【関心・意欲・態度】</p>
	8	<p>読書討論会に向けて本を読む。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・書かれている内容や感想についてメモに書く。 	<ul style="list-style-type: none"> ・具体的な職人の行動や言葉に着目するよう助言する。(伝記やスポーツ選手等に興味を持っている子もいるので取り上げる。) ・前回の白鷹さんの言葉や気持ちと比べて考えるよう助言する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・テーマに沿って本を読み, 自分の考えをまとめて書いているか。 <p>【読む】【書く】</p>
	9	<ul style="list-style-type: none"> ・「職人の努力と技, たたかい続ける気持ち」について考え, 読み取る。 		<ul style="list-style-type: none"> ・職人の気持ちや行動を考え, 自分の意見を明らかにして書いているか。 <p>【読む】【書く】</p>
	10	<p>読書討論会に向けて, 読書レポートを作成する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・相手に伝わりやすいように, 自分の考えを明確にした読書レポートを書く。 	<ul style="list-style-type: none"> ・レポートの書き方を思い出し, 読書レポートの構成にしたがってまとめさせる。 ・話すことの視点を与えて練習させる。 ・司会者には事前に読書会の進め方を個別に指導しておく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・相手を意識した話し方をしているか。 <p>【話す・聞く】</p>
	11	<ul style="list-style-type: none"> ・レポートをもとに, 話す練習をする。 		<ul style="list-style-type: none"> ・自分の意図が伝わるように, 考えを明確にして話すことができたか。 ・話し手の意図をつかみながら聞き, 自分の考えと比べて聞くことができたか。 <p>【話す・聞く】</p>
12	<p>「私のおすすめの人はこの人だ!」について読書討論会をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・テーマや時間配分を確認する。 ・グループに分かれて読書討論会をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・読書討論会の進め方を確認させる。 ・友達の意見を聞いて, 自分の考えを持つことを意識しながら話し合うようにさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・深まった自分の考えが明確に伝わるように感想を書いているか。 <p>【書く】</p>	
4	13	<p>読書討論会の感想を書いて話し合い, 活動を振り返る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・読書討論会の感想をまとめる。 ・夏休みの読書計画を立てる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・読書討論会で深まった自分の考えを中心に書くようにさせる。 ・読書討論会を振り返ることで新しいジャンルの本への意欲を持たせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・新しいジャンルの本を読もうとしているか。 <p>【関心・意欲・態度】</p>

7 本時の展開


(1) 本時のねらい

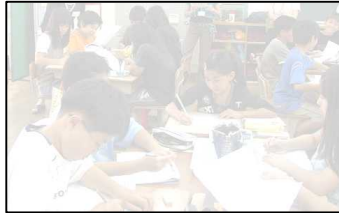
- ・自分の意図が伝わるように、考えを明確にして話すことができる。
- ・話し手の意図をつかみながら聞き、自分の考えを広めたり深めたりすることができる。

(2) 授業仮説

- ・読書討論会の場において、自分の考えを明確にする読書レポートを活用することにより、自分の考えを工夫して話したり、相手の意図をつかんで聞いたりすることができるであろう。

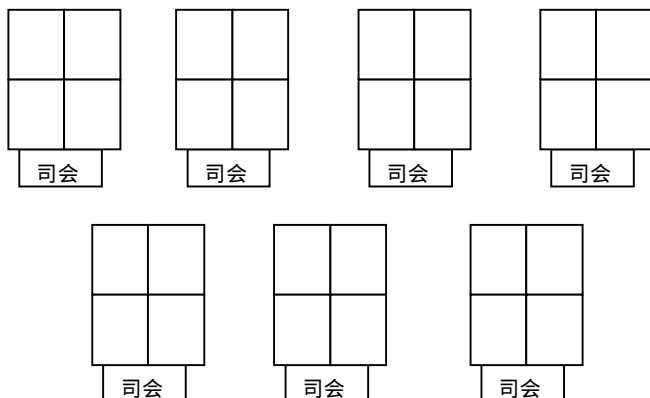
(3) 展開

	学習活動	教師の支援	具体的評価規準
導入	<p>1 学習のめあてを確認する。</p> <p>読書討論会でテーマについて話し合い、考えを広めたり深めたりしよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分の考えが伝わるように相手を意識しながら話す。 ・相手の話の意図は何かつかみながら聞く。 	<ul style="list-style-type: none"> ・全員でめあてを音読して確認させる。 	<p>【話すこと】</p> <p>A・自分の考えや理由をはっきりさせ、順序立てて話している。</p> <p>B・自分の考えをはっきりさせ、理由をつけて話すことができる。</p> <p>C・手だて 読書レポートやメモを見直させる。</p>
展開	<p>2 読書討論会のテーマを確認する。</p> <p>「私のおすすめは、この人だ！」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・テーマに沿った話し合いをする。 <p>3 読書討論会のルールや時間配分を確認する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・司会が進行を行い、協力して楽しい読書討論会にする。 ・各人の紹介の後、グループで「職人の努力と技・たたかい続ける気持ち」について話し合う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・具体的な視点を与えて読書討論会に臨ませる。 ・全員でテーマを音読して確認させる。 ・各人が「おすすめの人」を紹介した後に、質問や感想を交流することを確認させる。 	
展開	<p>4 読書討論会をする。</p> <p>メンバー紹介（2分） 各人のお薦めの人紹介と質疑応答（10分） 意見交換・感想交流（10分） グループのまとめ（5分） 感想まとめ（8分）</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・読書討論会の進め方を確認させる。 ・自分がその本を読んでどんなことを考えたのか、また理由はどんなところが表れるように発表することを確認する。 ・聞く側は聞いていて話し手が一番伝えたい点や自分の考えが広がった点についてメモを取りながら聞くよう指示する。 	<p>【聞くこと】</p> <p>A・聞き取った内容から、自分の考えが広がったり変化したりした点について感想を言ったり質問をしたりすることができる。</p> <p>B・聞き取った内容から、感想を言ったり質問をしたりすることができる。</p> <p>C・手だて 文末表現に気をつけさせる。</p>
まとめ	<p>5 学習のまとめをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・振り返りカードを書く。 ・次時の活動を確かめる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・話し方、聞き方について自己評価させる。 ・読書への意欲を持たせる。 	



(4) 場の設定

黒板



(5) 板書計画

読書の世界を広げよう。(読書討論会をしよう)

めあて

- 読書討論会でテーマについて話し合い、考えを広げたり深めたりしよう
- 自分の考えが伝わるように、相手を意識しながら話す。
- 相手の話の意図は何かつかみながら聞く。

テーマ

「私のおすすめの人は、この人だ!」

職人の努力と技・たたかい続ける気持ちについて話し合おう。

読書討論会の進め方

- メンバー紹介(二分)
- 各人のお薦めの人紹介と質疑応答(十分)
- 意見交換・感想交流(十分)
- グループのまとめ(五分)
- 感想まとめ(八分)

約束

- グループで協力して話し合おう。
- 話し方、聞き方
- 話し合い方に気をつける。
- 質問、感想を5回以上する。

めあて

- 自分の考えが伝わるように、相手を意識しながら話す。
- 相手の話の意図は何かつかみながら聞く。

読書討論会の進め方

- メンバー紹介(二分)
- 各人のお薦めの人紹介と質疑応答(十分)
- 意見交換・感想交流(十分)
- グループのまとめ(五分)
- 感想まとめ(八分)

約束

- グループで協力して話し合おう。
- 話し方、聞き方
- 話し合い方に気をつける。
- 質問、感想を5回以上する。

8 検証授業研究会

(1) 授業者の反省

単元計画や指導法、討議の形式、本の種類、テーマの設定等に自分自身に迷いがあり、難しかった。特にテーマについての話し合わせ方や発問の仕方、視点の与え方、話し方・聞き方の定着のさせ方の難しさを改めて感じた。

グループ討議にしたのは、一人一人に発言の機会を与え、力を付けたいと考えたからであり、今回はそのめあてが達成できたと考えている。

本時のねらいである「自分の意図が伝わるように、考えを明確にして話すことができる。」は、読書レポートやメモを書かせることで、自信を持って話している様子が見られたので達成できたと感じる。ふたつ目の、「話し手の意図をつかみながら聞き、自分の考えを広めたり深めたりすることができる」は、本時の授業だけでは検証することができなかつたので、ワークシートで把握していきたい。

単元指導を通して「話すこと・聞くこと」の意識や技術は高まったと考えられる。今後、学習や生活の中で、自分の言葉で伝え合うことに生かしていきたい。

(2) 意見及び感想

「話し方」「聞き方」「話し合い方」の掲示物が教室上部に掲示してあったので、児童の目線に合わせて掲示したらどうだろうか。(A 授業で指導しているときは、児童の見えやすい位置に掲示してあったが、常時掲示しておきたかったので上部に移動した。)

子どもらしい自由な表現を期待していたが、話し方なのか、話す楽しさを味わわせることなのかとどちらが優先なのかと思った。(A 1回目の読書討論会では、のびのびと自由に感想を言い合う姿が多く見られたが、今回はテーマが難しかったことや、会議形式を意識させすぎたことから硬くなったようである。)

教師に迷いがあったことが指導案から感じられた。研究テーマである「伝え合う力」と、手段であるべき「読書会」が同等の比重になってしまっているのではないかと。もっと「伝え合う力」を意識した「話すこと・聞くこと」をきたえる読書会で計画してもよかったのではないかと。

読書レポートで自分の考えを整理する手立てとしては、良かった。しかし、子どもがレポートを持っていることで安心しきって読んでおり、自分のものになっていない。

話し方・聞き方・話し合い方の型にはまった指導は基礎基本の定着には不可欠である。まずは型にはめ、次に型から出た子どもたちを育てていくことを目標として今後の指導につなげていって欲しい。

教師が一人一人の読書レポートに目を通し、把握しているところが良かった。また、語りかけるような話し方や、子どもを引き付けるやり方が良かった。レポートが取れてことを感じた。

子どもががんばっていた。自分の言葉で受け答えする(型から抜けつつある)子どもいて感心した。

ねらいを達成できたかどうか、ワークシート等でしっかり検証して欲しい。

伝え合う力とは、感性を磨くことにもつながるので、見たこと・感じたことを自由に表現できる子を育てていって欲しい。

(3) 指導助言(沖縄県立総合教育センター指導主事 多和田 文子)

子どもたちが楽しく参加していた。特に司会者の子ががんばっていた。司会者用のシナリオを配布していたのも良かったが、どの子にも力をつけるためには、全員にシナリオを配布する必要がある。

グループ討議で良かった。一人一人が発言しており、学び合う姿が見られた。分からない言葉が出てきた時や質問の意図が分からない時に教え合う姿があった。

本時のねらいについては、達成できていたと考えられる。読書レポートを書かせたことで、自分の考えを明確に持つことができ、話すことができていた。聞くことに関しても、相手の意図は何であるかをしっかりと捉えようとしていた。

今回は、教材文のレポートを書かせる際に、教師の手立てとして段落構成を指示したり、手本を示したりしたことで、全員書くことができたと思う。論理的思考力は書く、表現する、伝えることであるからきちんと指導しておくべきである。繰り返し書かせていくことで、子どもたちの書く力が育っていく。

国語の学習が他教科にも生きてくるため、しっかりと基礎基本を身につかせなければならぬ。また各学年で押さえるべき系統性を考慮して、国語科の学習として押さえる。



グループでの話し合い



友だちとの学び合い



まとめの発表

仮説の検証

1 具体仮説 の検証

読書討論会の場において、読書レポートを活用することにより、自分の考えを明確に持つことができ、伝えたいという意欲が高まり表現することができるであろう。

【児童の読書レポートより】

読書レポートは、単元指導において全員が2度書いている。1回目に教材文での同一職人（かじ職人の白鷹さん）について、段落構成を教師の指示の下、400字程度にまとめた。2回目には自分が紹介する人物について、1回目の学習をふまえて自力でまとめていった。実際の児童の読書レポートと教師の手立ては、図3の通りである。

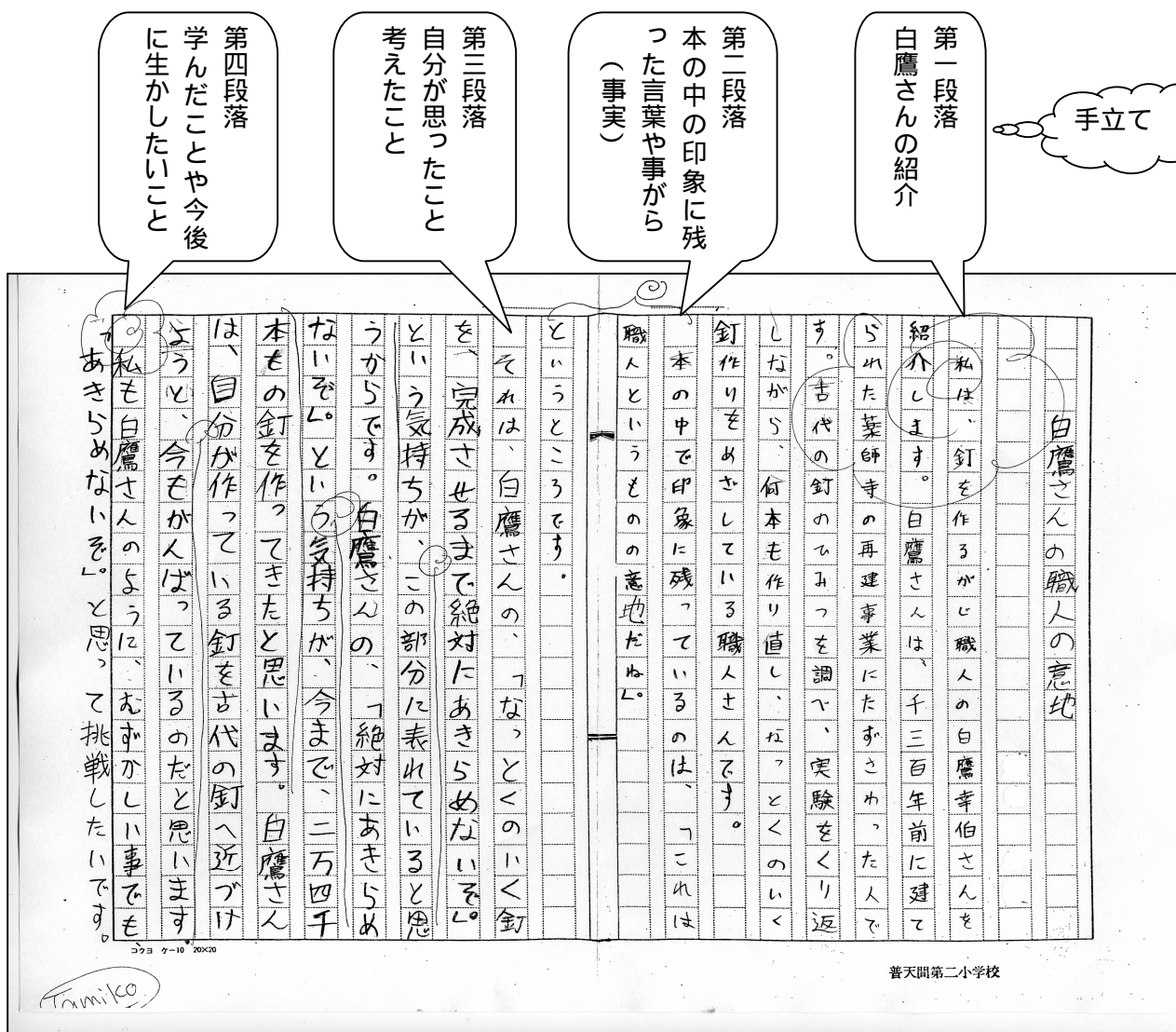


図3 児童の読書レポート 1回目・教材文「千年の釘にいどむ」

読書レポートを書く活動を通して、児童は自分の考えを整理することができた。また、レポートに書けなかった事からや、相手に質問されそうなこと、付け加えたいこと等をメモにして手元に用意しておき、話し合いに臨んだ。

その結果、自信を持って話したり質問に答えたりする姿が多く見られた。実際に子ども達からも「話す内容があるから自信が持てた。」「質問に答えられてうれしかった。」等の声を聞くことができた。

このことから読書レポートを活用することで、自分の考えを明確に持つことができ、伝えたいという意欲が高まり表現することができたと考える。

2 具体仮説 の検証

読書討論会の場において、的確に話したり相手の意図をつかみながら聞いたりすることにより、いろいろな本の情報を友達と共有し、知ることの喜びを味わうことができ、伝え合う力が高まるであろう。

【児童の自己評価より】

「話すこと」「聞くこと」に関して、児童に自己評価をしてもらったところ、図4・図5のような結果が出た。

「話すこと」(図4)より、相手をただ単に見るだけではなく「相手の様子を見ながら話す」の問いに、「できる」と答えた児童が事前では20%だったが、事後では84%と変容した。これは、今まで以上に相手を意識した話し方になったと考えられる。また、子ども達はこれまでに()声の出し方や、()言葉づかいについて、前学年で学習してきたが、高学年でつきたい() () ()の力についても、8割の子が「できた」と答えている。

「聞くこと」(図5)でも同様のことが考えられ、「()相手の様子を見ながら聞く」の問いに、事前35%、事後81%と変容している。「()メモを取りながら聞く」は、事前58%、事後90%と変容しているが、メモの取り方についても、大切なことをキーワードとして押さえたり、5W1Hを意識したりと、内容が良くなっている。

「事実や感想・意見を区別して聞く」ことに関して、指導前は「そんなこと考えたこともなかった」という子が多かったが、事後は78%の子が「できた」と答えている。() ()の力についても約80%の子が「できた」と答えている。これは、「質問できるように聞いてみよう」「自分の考えと比べてみよう」など視点を与えた練習をしてきたからだと考えられる。

これまで、読書討論会までの具体的な計画として、よい話し方、聞き方、話し合い方のスキル学習を行ったり、話し合い活動に対話形式からグループ形式と段階的に行ったり、伝え合いという相手を意識した取り組みをしてきた。児童の自己評価の結果から、今まで一方的に話したり聞いたりしていた子どもたちが、相手にわかるように話したり相手の意図をつかみながら聞いたりすることができたと考えられる。

【児童の感想より】

読書討論会の後に、自分の考えが深まったかどうか子ども達に感想を書いてもらった。子ども達の考え方の変容は次の通りである。

僕は読書討論会をしてこういうことがわかりました。それは、たとえスポーツ選手でもがんばり方や努力の仕方がちがうということです。僕は、「君の意見の「落ち着いている」や」君の「何事にもあきらめずに」という意見に感心しました。それは、スポーツ選手には落ち着きが必要だとわかったし、何事にもあきらめずに、というきもちが大切だと思ったからです。

(K男)

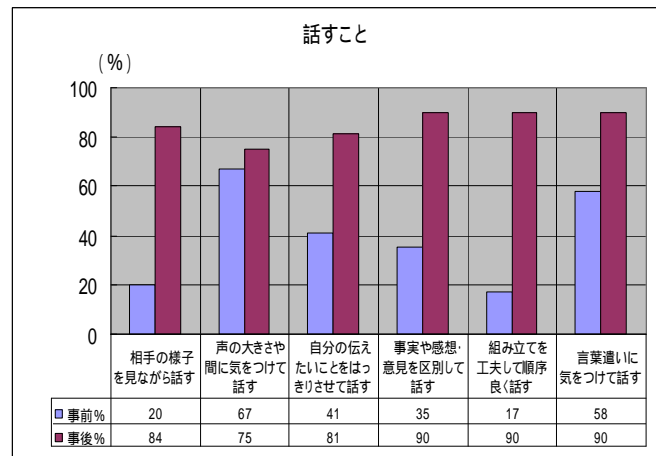


図4 「話すこと」の自己評価

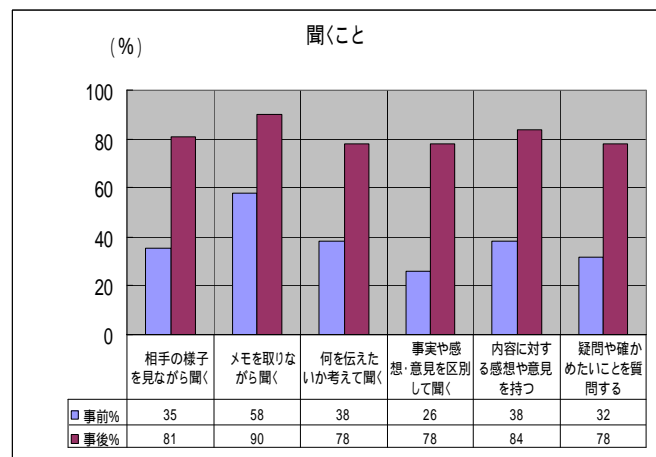


図5 「聞くこと」の自己評価

僕は野口健さん（登山家）の事を調べました。野口さんの山に登っていることしかわからなかったけど、他の人の話を聞いて十数個くらい意見が出てきました。それを聞いてまた何個か思いうかんでそれで話しが進みやすくなりました。一番ヒントになったのはHさんの「自然を大切に」という言葉です。野口さんの本を見直すと、山を登りながらゴミを拾うと書いてあって、とてもすごいとおもいました。そして、僕たちのグループでは三つの共通点がありました。その一つに人の役立つことをしているということです。意見が合ってとてもすごいです。（S男）

最初は、職人はただがんばってプロになったんだと思っていたけど、みんなの話を聞いて、がんばっている中でも、「努力」「挑戦」「苦労」「がまん」「意地」などがあつたから、みんなが紹介した人たちは職人になれたと思います。それ以外にもみんなから習ったことはいっぱいあります。グループだけじゃなくクラスのみんなかからも「助け合い」「協力」「人のため」「納得のいくまで」「心をみがく」などいろいろありました。（H女）

これらの児童の感想からも表れているように、子ども達はいろいろな本の情報を友達と話し合うことにより、友達の考えを受け入れ、自分の考えを深めることができている。自分の考えを広めたり深めたりすることは、知ることの喜びを味わうことにつながると考えることができる。

【アンケートの結果より】

読書討論会終了後のアンケートの結果(図6)によると、「読書討論会に楽しく参加できたか」の問いに、クラス全員が「できた」と答えており、更に88%の児童が、「自分から積極的に話し合いができた」と答えている。

「読みたくなった本があつたか」(図7)という問いに対して、30人の児童が「あつた」と答えている。実際に、休み時間や読書の時間に本の紹介をしたり、おすすめの人の話をしたりする姿が見られた。

図8は、読書討論会の児童の感想である。子どもたちの学び合いの様子が伺える。

これらの結果から、ほとんどの子どもが意欲的に楽しく話し合いに参加していることがわかる。

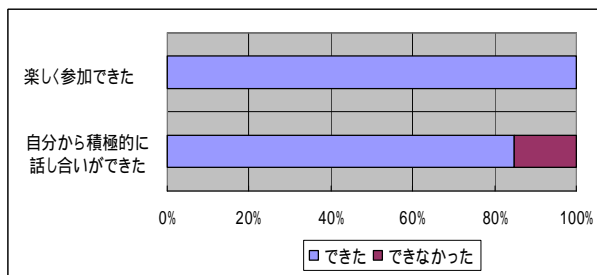


図6 読書討論会のアンケート結果

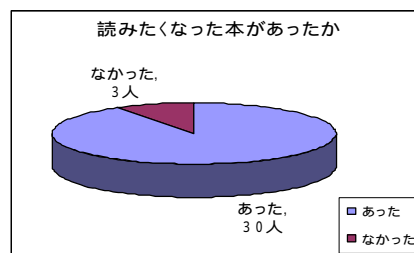


図7 読みたくなった本があつたか

・友達に質問されて、今まで考えたこともなかつたことがあることに気づいた。

・友達の意見を聞いて、自分の身近な人にも似ているところがあると思った。

・いろいろわかつたので、話し合いっていいなと思つた。今度は他のグループとやってみたい。

・みんなの前ではあまり発表しない人が、グループではいっぱい発表してすごいと思つた。

・8回も質問した。質問にも答えることができうれしかった。

・ドキドキしたけど、グループの前で発表できてよかつた。

図8 読書討論会の児童の感想

このように児童の自己評価・感想・アンケートの結果を見ていくと、子ども達は読書討論会を通して相手にわかるように話したり相手の意図をつかみながら聞いたりすることができるようになった。また、楽しんで話し合いに参加し、友達の思いや考えを受け入れ、学び合うよさや知ることの喜びを味わうことができた。これらのことから、子ども達の「伝え合う力」を高めることができたと考えられる。

研究の成果と今後の課題

1 研究の成果

- (1) 「話すこと・聞くこと」の視点を与えるためにワークシートを作成し、実際に練習させることで、人前で話すことへの抵抗が少なくなり、意欲的・積極的に「伝え合うこと」ができるようになった。また、学びの連続性を図るため、その掲示物を授業終了後、常時教室に掲示することにより、児童の意識の向上につながった。
- (2) 読書レポートを書く学習で、段落構成の手立て・文章事例などを提示したり、より個に応じたきめ細かな支援をしたりすることより、クラス全員が読書レポートを書くことができた。
- (3) 読書レポートを活用した読書討論会を設定することで、意欲的に話したり聞いたりすることができた。また、読書で得た情報を相互交流することにより、学び合う良さや楽しさを味わうことができた。

2 今後の課題

- (1) 「伝え合う力」を高めるための継続的・系統的な指導計画及び評価の工夫。
- (2) 他領域と関連付けた授業の工夫。
- (3) 「話し合い」のテーマの設定と、視点の与え方、発問の工夫。

3 終わりに

4月から半年間、「伝え合う力を高める学習指導の工夫」をテーマに研究を進めてきました。当初は研究の進め方も分からず、今までの勉強不足を強く感じ、不安とあせりで時間だけが過ぎていきました。テーマに沿って研究をすることが、とても難しく試行錯誤の連続でしたが、大変有意義で、楽しくもありました。理論研究は基より、コンピューターの操作法の習得やプレゼンテーションの方法等、私にとって大きな財産となりました。今後の教育実践に生かしていきたいと思えます。

このような研究の機会を与えてくださった宜野湾市教育長の普天間朝光先生、温かく歓迎し励ましてくださった宜野湾市立教育研究所所長の長崎光義先生、研究所の入所を勧めてくださった普天間第二小学校校長の出盛光朋先生、研究に行き詰った時には相談に乗って頂きいつも温かく支えてくださった普天間第二小学校教頭の仲程悦子先生、並びに教員の皆様、検証授業に協力してくださった我那覇真弓先生と5年2組の子ども達に心から感謝申し上げます。ありがとうございました。

本研究を進めるにあたり、県立総合教育センター指導主事の多和田文子先生には、テーマ設定から、研究の進め方、実践、まとめ方まで丁寧なご指導ご助言を頂きました。国語科教育の理論も多く学ばせて頂きました。また、研修係長の田場勝先生には、研究の進め方や論文のまとめ方を始め、教師としての姿勢を含め、たくさんのことを教えていただきました。先生方のお力添えで研究を進めることができました。深く感謝申し上げます。

更に、縁あって共に研究に励み、苦しみも楽しみも分かち合った仲松由喜子先生、いつも笑顔で励ましてくださった西川賢先生や、はごろも学習センターの皆様にも深く感謝申し上げます。共に時間を過ごせたことを大変うれしく思います。本当にありがとうございました。

< 主な参考文献 >

- | | | | |
|-----------------|---------------------|--------|-------|
| ・堀 裕嗣著 | 『発信型授業で「伝え合う力」を育てる』 | 明治図書 | 2003年 |
| ・石黒 修著 | 『「討論」で授業を変える』 | 明治図書 | 1988年 |
| ・横浜市小学校国語教育研究会著 | 『豊かな言語活動で確かな国語力を』 | 明治図書 | 2006年 |
| ・笠原 良郎編著 | 『読書の楽しさを伝えよう』 | ポプラ社 | 2005年 |
| ・竹長 吉正著 | 『読書レポートの誕生』 | 東洋館出版社 | 1999年 |